

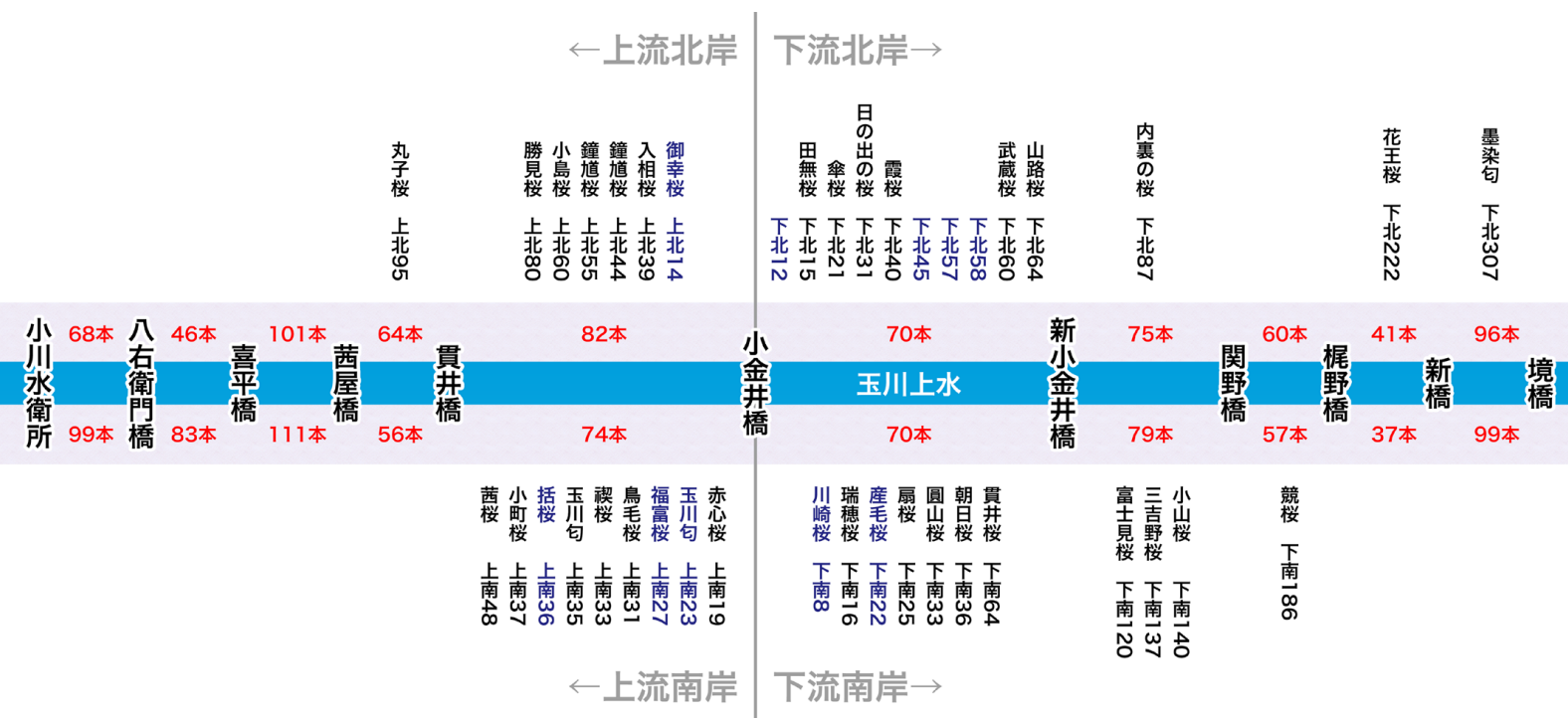
40本の小金井桜

令和6年12月9日、小金井桜は国の名勝に指定されて100周年を迎えました。その記念として今回は「小金井の湧水点」に代わり、小金井桜の臨時特集号です。

小金井桜が国の名勝に指定されたのは大正13年12月9日。翌大正14年9月、東京市は名勝指定区域内の桜樹をすべて数え上げ、小金井橋北西に名勝小金井桜碑を建設します。このとき桜樹の総数は1,468本でした。この調査の画期的な点は小金井桜特有の数え方により、名勝指定区域内の玉川上水に架かる橋と橋の間の桜樹の本数を明らかにしたことです。東京市は小金井橋を起点として、小金井桜を小金井橋の上流南岸・上流北岸・下流南岸・下流北岸の4つのエリアに分けて数えています。この調査結果は「小金井桜樹現在表」として、大正15年発行『小金井の桜』に公表されました。

昭和になり東京市は小金井桜の専門書『小金井桜花図説』を2冊発行します。第一輯は昭和2年、第二輯は昭和3年に発行されました。著者三好學(1862～1939)は小金井桜の国名勝指定に学問的な見地から裏付けを与えた植物学者です。三好は昭和以前から小金井桜を研究しており、桜樹に和名を命名して分類していました。『小金井桜花図説』では和名に加えて新たに番号を割り振っています。

日の出の桜(日の出桜)を例にしてみましょう。日の出の桜の番号は「下北31」、これは小金井橋の下流北岸、小金井橋から数えて31番目にあった桜樹を意味します。大正14年9月の調査では、小金井橋の下流北岸の小金井橋と新小金井橋の間には70本の桜樹があります。その31番目が日の出の桜であるという意味です。付番することにより個々の桜樹の位置を特定できるようになったわけです。



【凡例】

- ◆ 各橋の間の桜樹の本数は、大正14年9月調査「小金井桜樹現在表」に拠る。
- ◆ 黒字の桜樹30本の和名・番号は、『小金井桜花図説』に拠る。
- ◆ 青字の桜樹10本の和名・番号は、副島八十六旧蔵「昭和6年3月 東京市公園課撮影」写真に拠る。
- ◆ 玉川句は『小金井桜花図説 第二輯』には「上南35」とあるが、副島八十六旧蔵「昭和6年3月 東京市公園課撮影」写真には「上南27」とある。この2本は同種の別の桜樹と判断した。



小金井桜樹現在表
東京市公園課『小金井の桜』
国立国会図書館デジタルコレクション

ただし70本中、31番目だからといって、小金井橋と新小金井橋のほぼ中間にあるわけではありません。日の出の桜を撮影した写真には、背景に新小金井橋が写っている写真もあります。桜樹の間隔は場所によって疎らな地域、あるいは密集していた地域があり、均等ではないことに注意が必要です。

『小金井桜花図説』には残念な点もあり、図説と銘打ちながらカラー頁は巻頭のみです。おそらく印刷コストの都合でしょうが、第一輯は日の出の桜、第二輯は鐘馗桜の石版画のみカラー頁です。当時、カラー写真はないので、花や葉の色味を記録するには色刷りの絵に頼らざるを得ませんでした。日の出の桜と鐘馗桜以外の桜樹の石版画も元々は色刷りだったのですが、残念ながらモノクロ印刷になっています。三好學の著作に掲載された石版画はすべて洋画家佐藤醇吉(1876～1958)の手によるものですが、佐藤はさぞかし落胆したことでしょう。

さて、三好學は『小金井桜花図説』以前にも色刷りの石版画を使って小金井桜を紹介していました。

三好學『東京帝国大学理科大学紀要』大正5年

三好學『桜花概説』・『桜花図譜』大正10年5月15日

これらの著作で三好は小金井桜だけではなく、日本全国の桜を採りあげています。小金井桜が他の地域の桜と一緒にひとつの石版画に収められていて、しかも和名だけで番号がありません。例えば小金井桜のひとつに「小金井句」と名付けられた桜樹があります。その石版画は『小金井桜花図説』以前の三好の著作に掲載されていますが、『小金井桜花図説』には採用されなかったため付番されていません。つまりどこにあったのか分からないのです。

三好學が和名を命名したのは小金井桜の一部に過ぎませんが、その中で実際の位置が分かる桜樹はさらに限られています。また番号は一本一本の桜樹にひとつずつ対応しているのに対して、和名は複数の桜樹に付けられている場合もあります。例えば『小金井桜花図説 第二輯』には、鐘馗桜の番号として「上北44」と「上北55」の2つを記載しています。これは三好が2本の桜樹を同種と分類したことを意味しています。

昭和6年3月 東京市公園課撮影写真

大正6年、全国規模の桜の保護団体「桜の会」が発会します。桜の会は帝国ホテル支配人林愛作(1873～1951)、のちの東京市公園課長井下清(1884～1973)、三好學が中心となり発足しています。この桜の会の会員に明治の南洋探検家副島八十六(1875～1950)という人物がいました。副島の人となりについて、井下清の下で働いていた前島康彦(1910～1988)は以下のように述べています。

副島氏は無類の国士、勝海舟に励まされ発奮して南洋の大地に活躍した体躯頑強の老人であった。染井吉野桜を最も嫌い、山桜のみに愛恋傾倒した硬骨漢で、会の席上必ず染井吉野桜駆逐論を大声でぶちあげた事は知る人ぞ知るである。

桜の会幹事長 前島康彦「桜の会の人々」

ソメイヨシノが嫌いでヤマザクラを好んだ副島にとって、多様なヤマザクラの集植地であった小金井堤は好ましい土地だったのでしょう。この副島八十六が所蔵していた小金井桜の写真が、平成26年、遺族の方より当館に寄贈されました。この写真の中には、東京市公園課が昭和6年3月に撮影した小金井桜個々の桜樹の写真23枚も含まれています。これは副島が井下清から貰ったものです。同じ写真は東京都公園協会が運営する「みどりの図書館 東京グリーンアーカイブス」にも公開されていますが、副島が旧蔵した写真には裏面に各桜樹の和名や番号が記入されている点が貴重です。例えば御幸桜は『小金井桜花図説』以前の三好學の著作に採りあげられていますが、『小金井桜花図説』には採用されなかったため番号が不明でした。しかし副島が旧蔵した写真には「上北14」と番号が記入されており、明治天皇行幸を記念して植樹された行幸松(御幸松)のそばにあったことが確実となりました。『小金井桜花図説』には和名と番号の記載がある桜樹が30本採りあげられています。これに加えて副島が旧蔵した写真から和名や番号が判明した桜樹は10本あり、計40本が位置を特定できた桜樹です。

ただし位置が特定できたといっても、ある橋とある橋の間にあることが分かっただけで、詳細な現在地が分かっただけではありません。玉川上水堤は似たような景色が多く、桜樹と一緒に何か目印となるものが写っていなければ、現在地は分かりません。現在地が詳細に特定できた写真は、秋葉神社の鳥居が写る「御幸桜 上北14」と、背景に永井吉五郎商店が写る「下北12」のみです。写真を見ると昭和6年3月の撮影当日は、風が強く逆光にカメラマンも苦労したようです。とはいえ和名や番号と共に個々の桜樹を記録したのはこの写真だけです。位置が判明したのは、わずか40本に過ぎませんが、戦前の多様な小金井桜の実態を知るうえで貴重な記録には違いありません。

【出典】

紀要…三好學『東京帝国大学理科大学紀要』大正5年(1916)

図譜…三好學『桜花図譜』大正10年(1921)5月15日

図説1…三好學『小金井桜花図説 第一輯』昭和2年(1927)

図説2…三好學『小金井桜花図説 第二輯』昭和3年(1928)

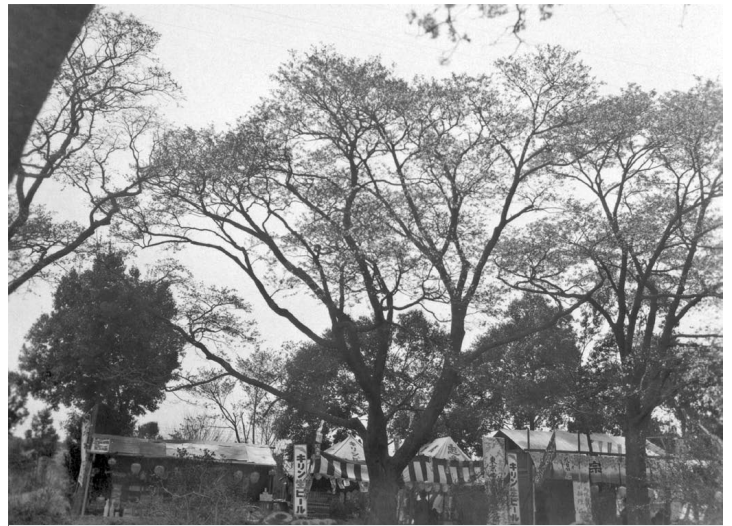
昭和6年3月…副島八十六旧蔵「昭和6年3月 東京市公園課撮影」写真

QRコード…三好學『小金井桜花図説 第一・二輯』

国会図書館デジタルコレクション



赤心桜 上南 19 昭和6年3月



玉川句 上南 23 昭和6年3月



鳥毛桜
上南 31



福富桜 上南 27 昭和6年3月



みそぎ
禊桜 上南 33 昭和6年3月



玉川句
上南 35



くくり
括桜 上南 36
昭和6年3月



小町桜 上南37
昭和6年3月



茜桜 上南48

上流北岸



御幸桜 上北14 昭和6年3月

御幸桜 *Prunus mutabilis* Miyos. f. *imperialis* Miyos.
小金井の白山桜の一にして、明治天皇行幸の碑の傍にある大木なり。赤芽、大輪、弁円く、淡紅を帯ぶ。
三好學『桜花概説』



いりあい
入相桜 上北39 昭和6年3月



しょうき
鐘馗桜 上北44
昭和6年3月



図説2



櫻 尾 鐘
Prunus mutabilis Miyos. f. *striata* Miyos.



小島桜
上北60
昭和6年3月



勝見桜
上北80
昭和6年3月



丸子桜
上北95

下流南岸



川崎桜 下南8 昭和6年3月



瑞穂桜 下南16 昭和6年3月



産毛桜 下南22 昭和6年3月





扇桜 下南25
昭和6年3月



まるやま
圓山桜
下南33



朝日桜 下南36
昭和6年3月



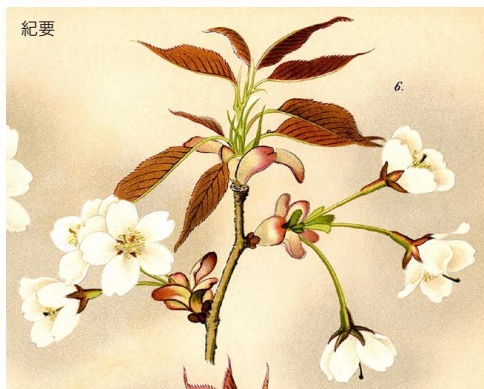
貫井桜
下南64



富士見桜 下南120



櫻見士富
Prunus montalis Miyos. f. *remota* Miyos.



三吉野桜
下南137



小山桜
下南140



きそい
競桜
下南186

下流北岸



下北12 昭和6年3月



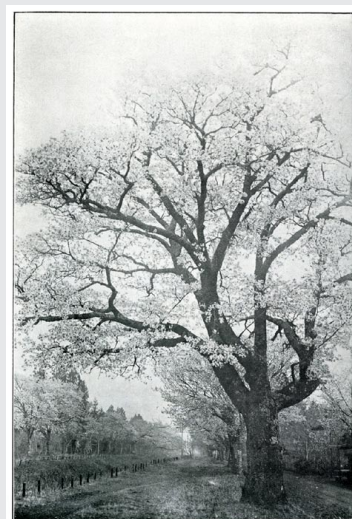
田無桜 下北15 昭和6年3月



傘桜
下北21



日の出の桜
下北31



櫻出の日井金小蔵武

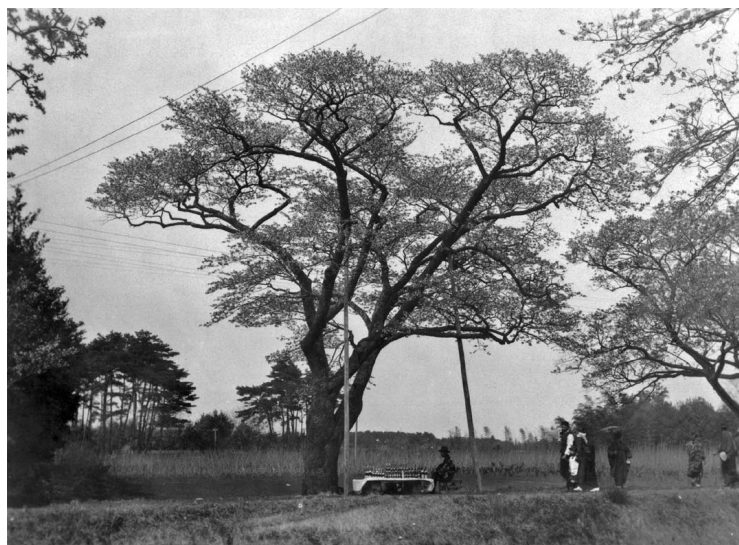
史蹟名勝天然記念物保存協会第壹回報告書
明治44年(1911)



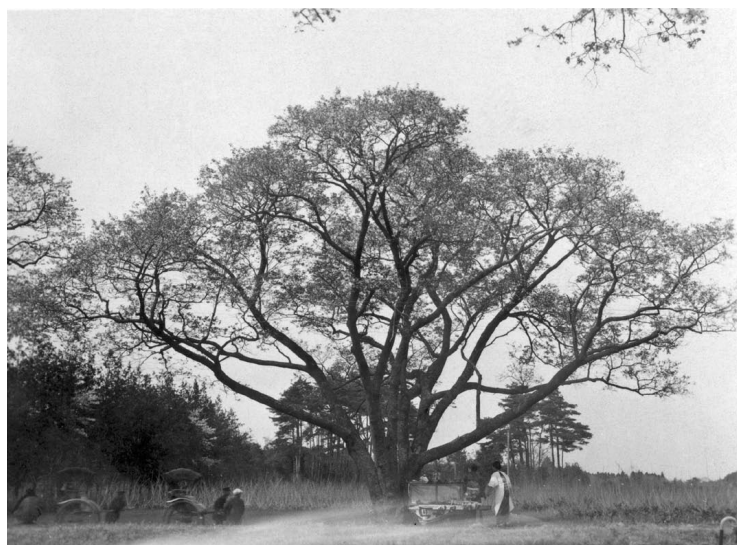
霞桜 下北40 昭和6年3月



下北45 昭和6年3月



下北57 昭和6年3月



下北58 昭和6年3月



武蔵桜 下北60 昭和6年3月



山路桜
下北64



内裏の桜
下北87



花王桜
下北222



墨染匂
下北307

小金井市文化財センター通信 No.5

40本の小金井桜

文／構成 多田 哲（学芸員）

令和7年3月31日発行

小金井市文化財センター
（旧 浴恩館）

小金井市緑町3-2-37
（浴恩館公園内）

☎ 042-383-1198